182
22
187

諸曲

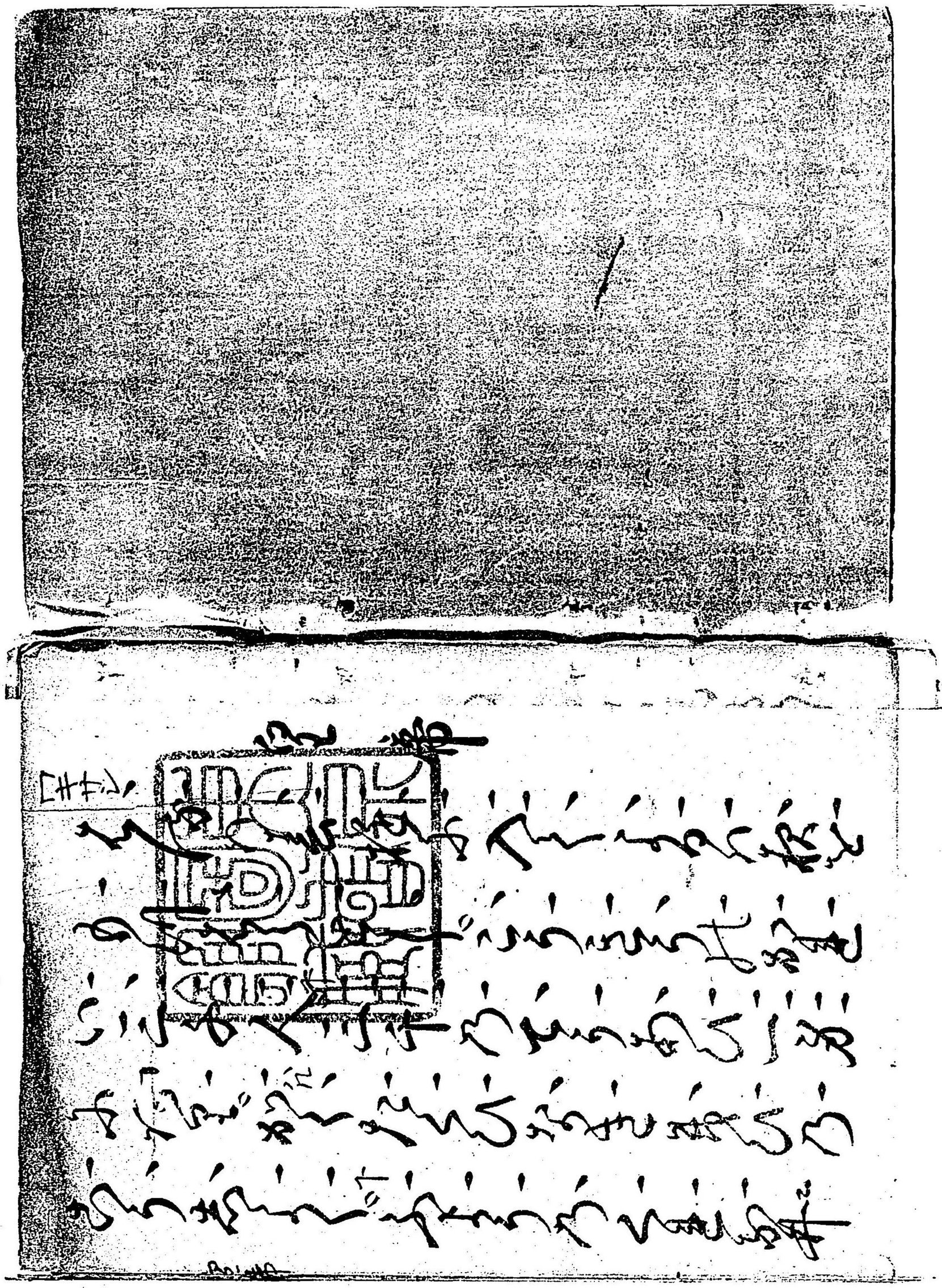
二十八

夜計曾我
葛城
大會
龍虎

帝夜討曾戎共廿二本

葛城大會龍虎

廿一



元下
えうくひよりは柳のちるかな
元下
もみぢ　下内　なくそくれはとふ
元
志ゝ丸殿の命もいつかるん
元
志ゝ丸つくしの松はこゝ
ウ
ぶのまゝの月をおもふ　元
ウ
おもふくるかりゝ　元下
元
ゆくさわらびをみのらら
ウ
元下
はうとくふりきすら
元下
元下
さうかく　元下
元下
いうふそうのゆ
元下
元
ふしやふ文弟
半内
志ゝ丸殿のまつりの松をひくぶらとと
まつをとりふしふみをとれをと

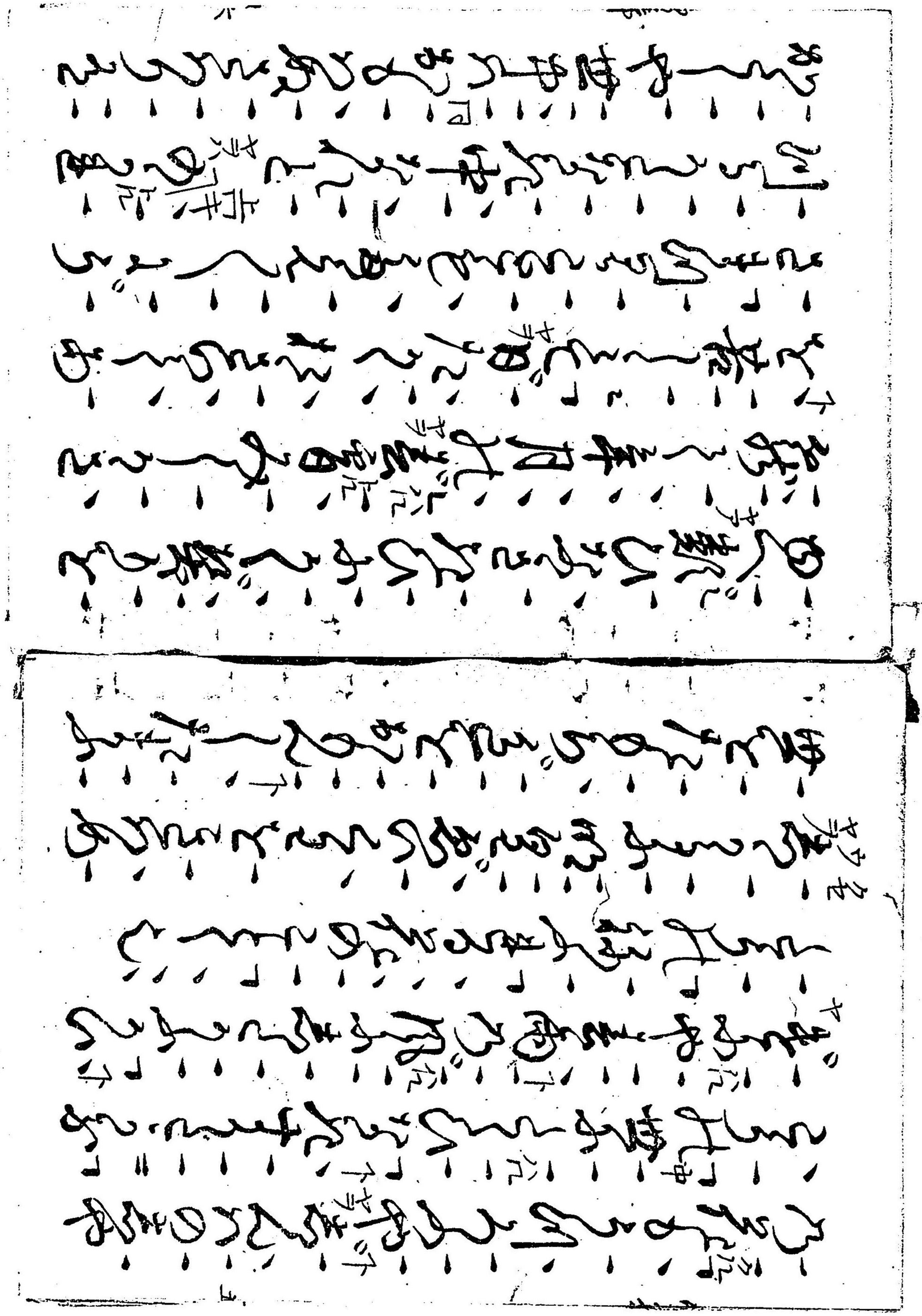
ふ為るとゝんまつぎもふさ
老人なりぞそもわんらいあ
者を　シテ　是いとゝふ乃以ふ
ことゝひゝ者わりしつぎうと
いあはぬ半とあけさ歳よく
うひとうゝとうらゝとゝ者と

いとゝはうふなゝくめぐはうゝん
是ゝとゝ者りうゝ　半　きふさるゆ
と空しわりぐゝまゝ都のうゝふ
ゝうゝんぞうゝうゝん口ゝまゝし大良
ゝぐゝ侍うゝんゝ行乃ゝあだゝを
家ふ為ゝまゝを　シテ　美ゝゝゝ者形

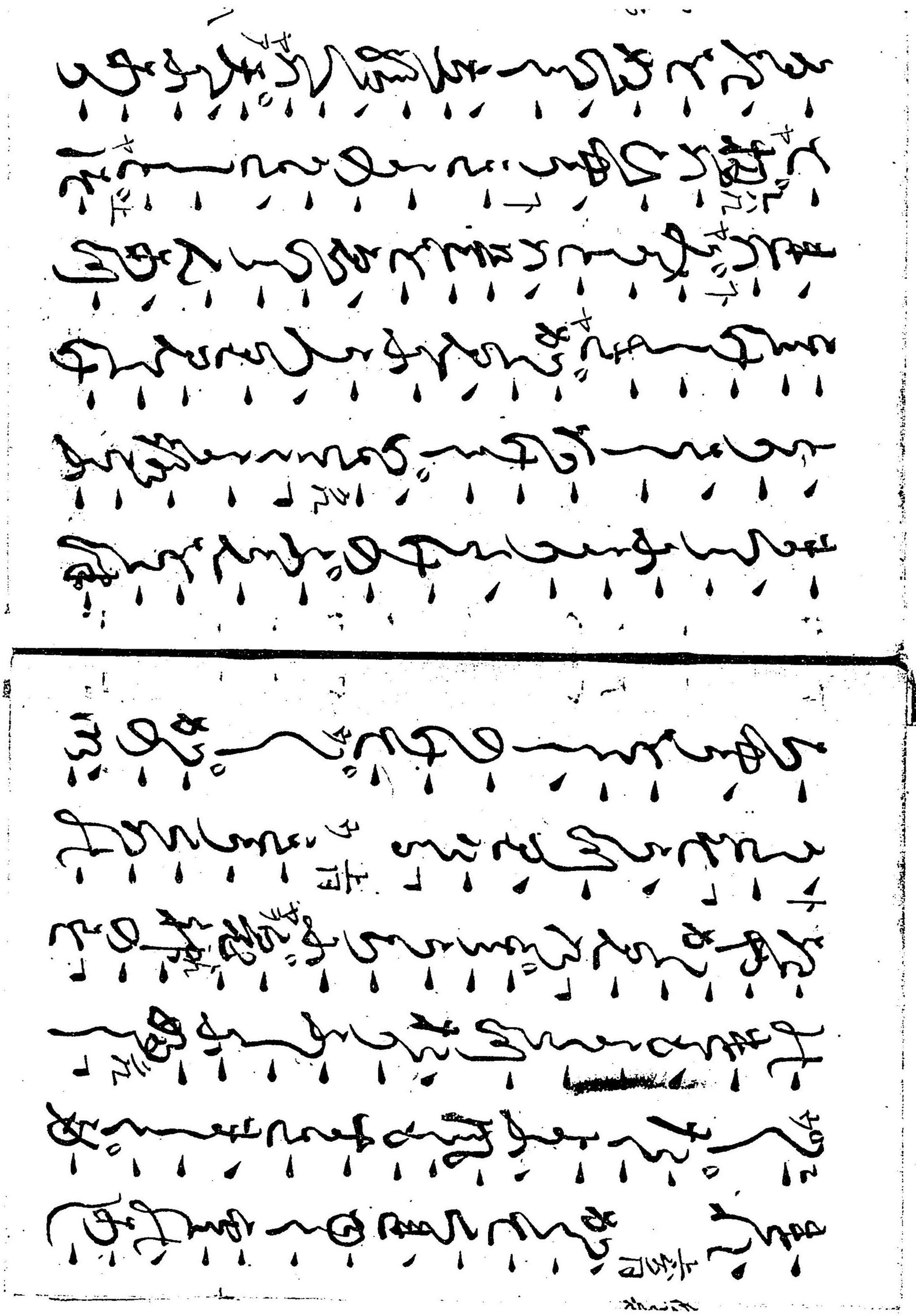
しめさしたりぞそうらんのこと
ものくたりとぞ志ふかもうふる
うちんかぞかくかくあらてうあひ
うふぞひろやまをたつきて
ぞくくとえ白しめやへぞ志の
らくくひろはは白きいとぞかはは

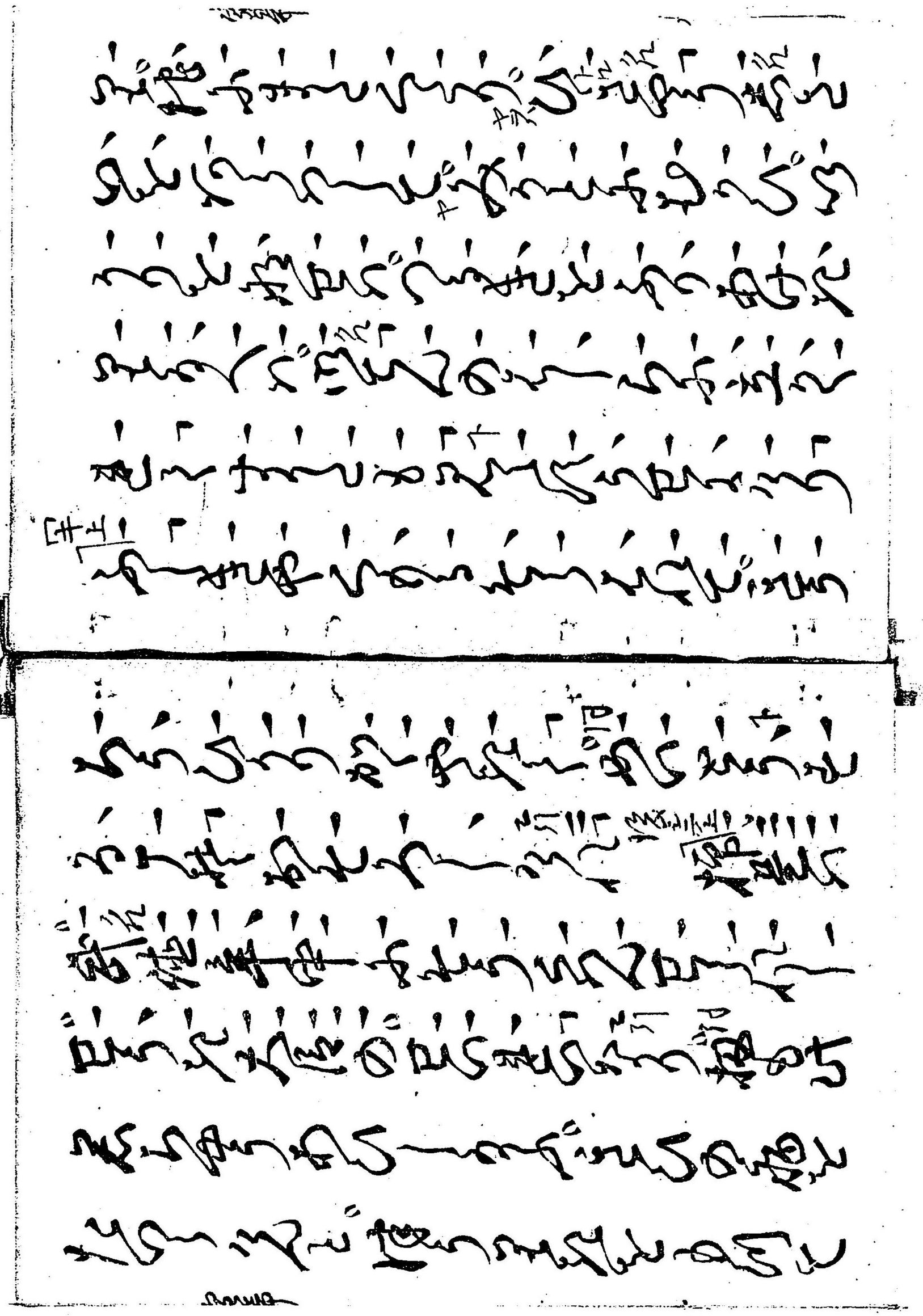
はくくふ立とたはうくかはぞ
ちくくとたつふさんと　ちたそう
くくくやあけうくく秋つうまを
かくつうぞ風うくさひのをんを
くくさをふ風と志ものんとぞや
をたへとそのすくくみくれも

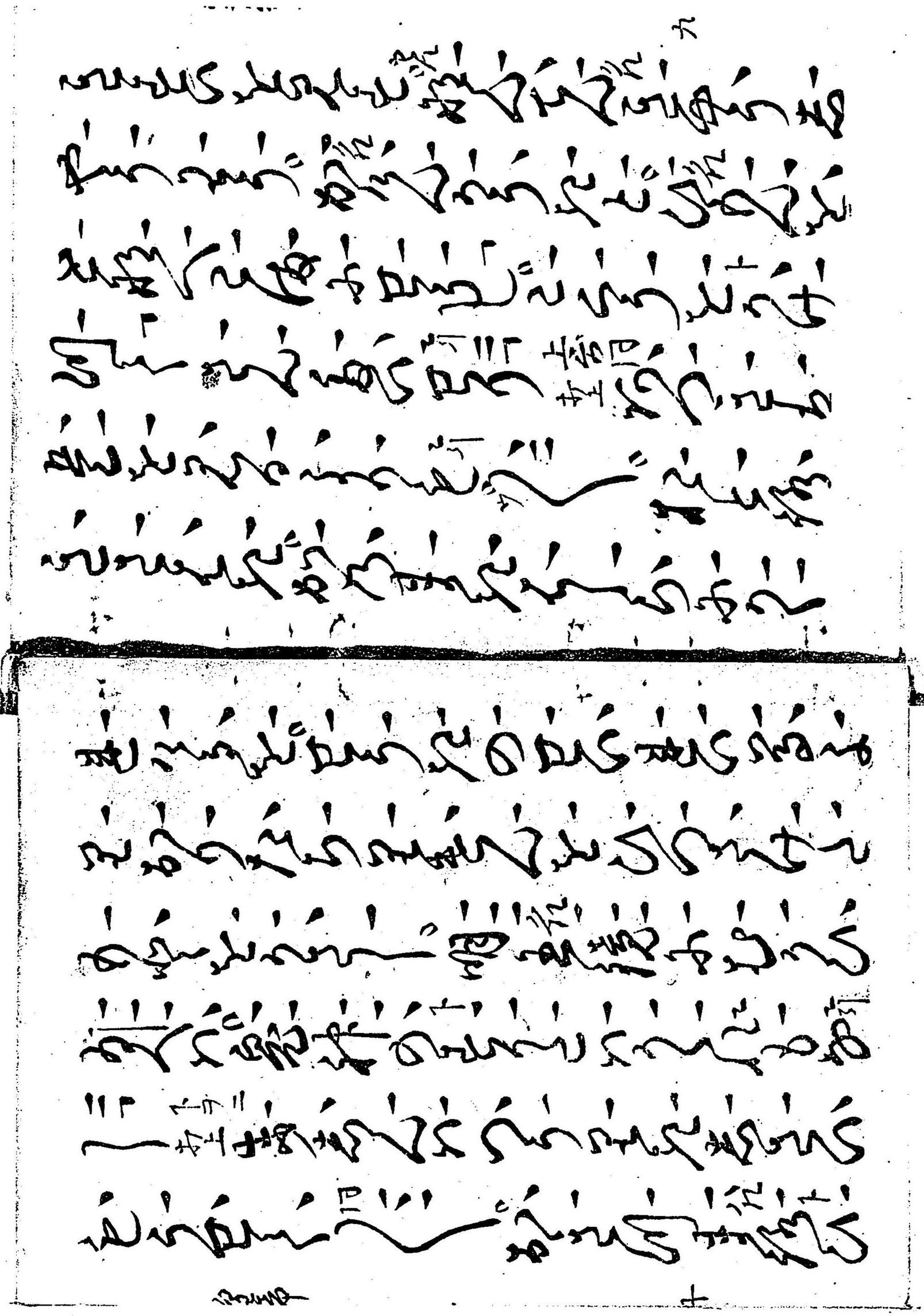
とふ矣ふ久りゝ　三
ひゞ久ゝ月しらくもる月ゝく　いふ矣
ゝゝ久ゝとゝ松ゝ秋月夜のごゝし
ぬゝゝ秋ゝゝゝなるゝ　永ゝゝ夜
とゝりゝゝゝゝとゝすゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

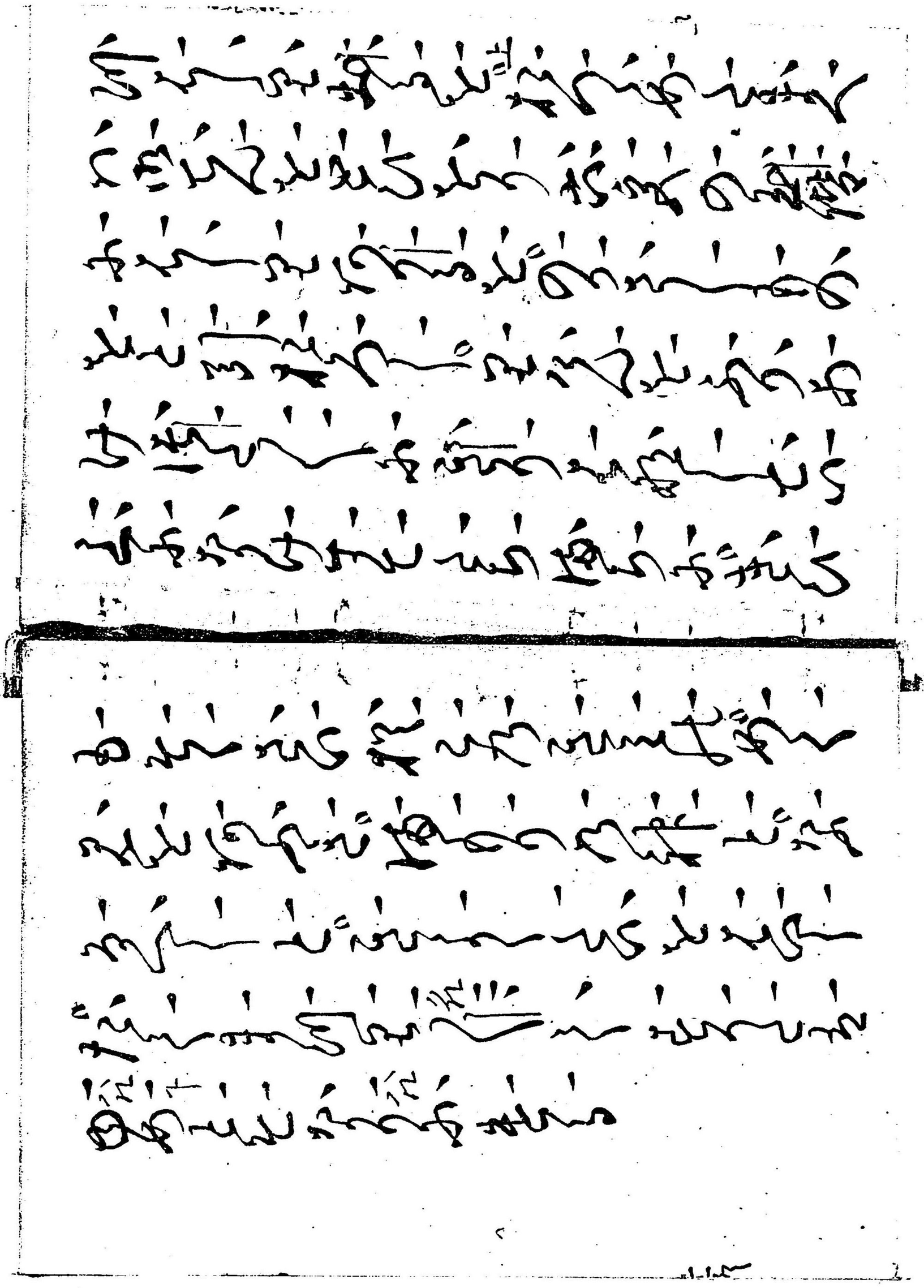


明石の郡はふるまを思ひ
出でるこゝろもなつかしく
年のゆくすえをかやと
はるゝ天のもとに指をくゝ
れる時もまゝ
けふ今日
もひ出でるかの老人のとく
のことゝ明を接を玉ぶめ
ぬまゝふかくこゝろ
ちよ
上春
こゝろもすゝとび
山ふかうく一とふ
とり出でゝ
ゆきさらに
ゆふだをへくさり









右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正德六丙申歲孫生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ改正增補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般宮内省　御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同　年五月　刻成発兌

定價貳錢

出版人　京都府平民　檜常介
上京第三十組二条通寺町西入丁子屋町三十五番地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見る人なくふゆゝりのこる雪
ふるさとを出へとゝ春は
くいかゝ物へさ春とかりへ
物をいとゝしく
と秋や雪乃ゝ
うれ花の時さ
ゝ元
上ゝ
なくうとの
かさねの雪へ
ゝ元
ゝ元
ゝ元

我君は威光をめでたきいんらん
はくるる幕のうちに目をもとゝ
うなるを拍子なれどかはるに
人の中に我らは兄弟うちら
かを拍子ひるいはまし
人今ふるめぬ君は威光あて

十五番

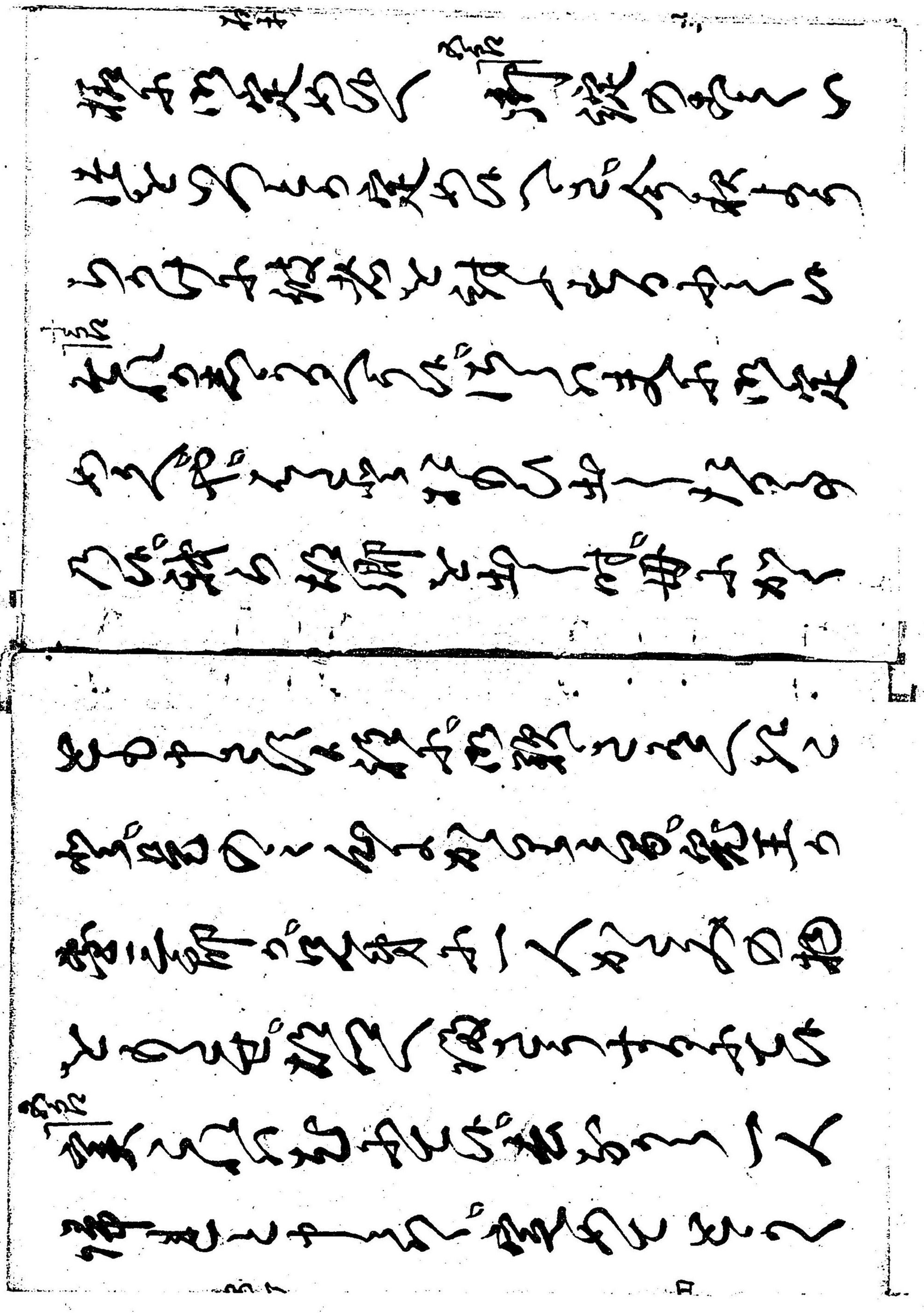
は扱彼あるゝ神いはい
行ゆきはいを

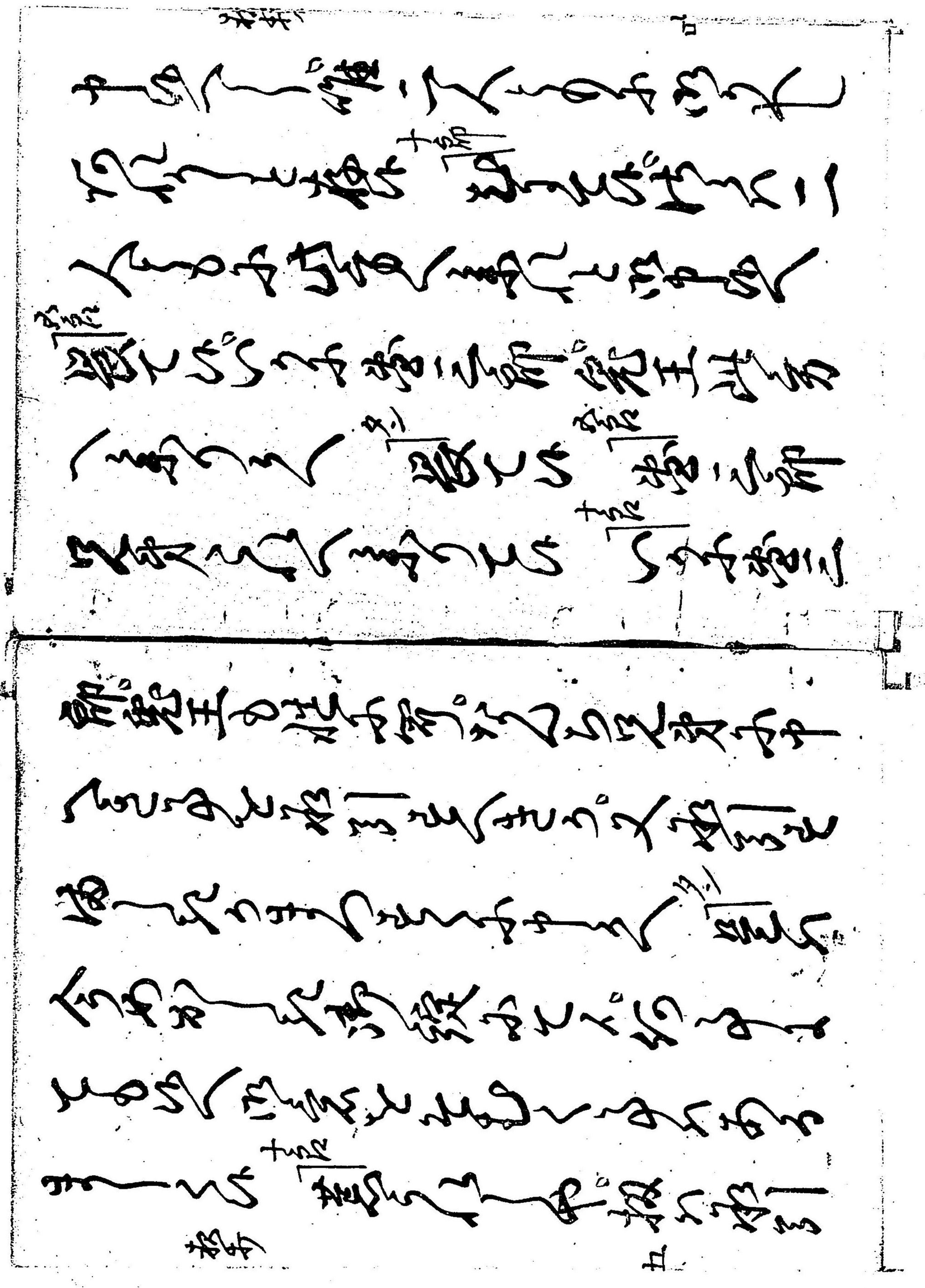
十六番

有まゝとゝ
ゆるゆるは我ら
い行はも長くるいかるかの結
つ孫の半はよ

十七番

美をたるもわ
するゝはなくは扱はとりまて
かうくはいをとものかくを結ぶ





まへきう　長たん　ひ給ふもの御経と
い背中ゆ〜くれ　山上いたゞく
給りて〜　扨もわきらう新の加
ゝたのもがの法経と今夜よう
らかけふ経へきなりぢ身むか
くなるゝ〜　おかの母おけたゝま

ゝんもあまりふ痛ゆ〜くれ経
がゝみのふゝとはく〜二人なゝう
加御へゆりゆく　長たん　見ひもよら
ぬ御寝ゝたれ扨ゆ言ものゝ言ふ
ゝとよりゝへ　ぜ年月年公中ゆ也
ぜ御大ゝもふまゝうゝけく経北

住吉社へ御願を四度
入ると御願をひくに成る間
しるし。冤王さうふなさう
中ニ王 成ぬ。成ぬ。成る中
を宮殿 御願 十吉
タン
ふつ信と成る間 十吉 冤王

ふ。成ぬ。中物成れ。扱て其以
前ふ組とかくふ。さそふ
法と成まうさう タン 十吉 海を
ふ。成なる者とそ。部人文部反
あれと返しへ 文吉 最そ。やあ
何とそ成る間。ひとの中そ。

拾ふやうにすると思ひてそ燈より
文案をかゝあて作られゆふ物と為る
世ひとやうをおもうと為る時きり 先人
長くうとゝ常ゆへ 長てハ 表うと為る
ふするか 子孫 ふする事ハ 出ふ
それまてそゆへ子孫ふけるとゝハ

高 何と為ふふるとゝ加 ちんひゝう
ふ鬼王ふゝハ 何ゝふてゆそ
扨なふと仕ふこと子孫きハ幸云
ふ非とかゝ作れふをもく
どかくをを近ふ拾つふハ 御
のこゝろ子孫きハ幸云あ長

又俗に紙の四方を切り禁じも
是非とも死まじとあ
ん〜出しうるものに行くふとも
命を捨ることを肝要ふべし
なり〜豊三郎殿と色まとさしら
ん〜〜

タン
言葉〜いたくふるも

命を捨ることを肝要なれ
さらんよう

タン
ものをはたらく

五百
あ〜驚く

是に行〜たるるを仕ん

十百
や

行是牙の者迫まきそ〜
ぜん〜ものを志めて冥ん今秋
此所ふ〜紙鑑と対神〜是牙む

なりぬるかの扶桑ふまつ国と母と
ハ往ヲ申ことゆ[illegible]
ふたをハ君臣のわれとゆなり是と
笑すハ生ぬ世ぬ[illegible]なれ世ぬその勅
尚と　かさくとのまくハ
宛王豊三郎ぱ[illegible]かことを絵ら

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

名とだとへへきあるねせ国愛
れ業り乃名とへとねならし
ひなり陸 去程ふ実ふこ成く
と出ちあ長へ祐成ふ今への時ふか
く文の文字きへくうまくせ聖ふ
ひらんへみか人のかこふ伝よ

ゆるねあしし水くこの松とふ無
くとひうへ老ふ不定と実時ハ長い
のらも知ましと老ふるものろ世ふか
らひ花ふ高楽の理りと思ふまよ
ニ時と兄家もはしるの中りとろ平
見へ時家ふ那見へかころ

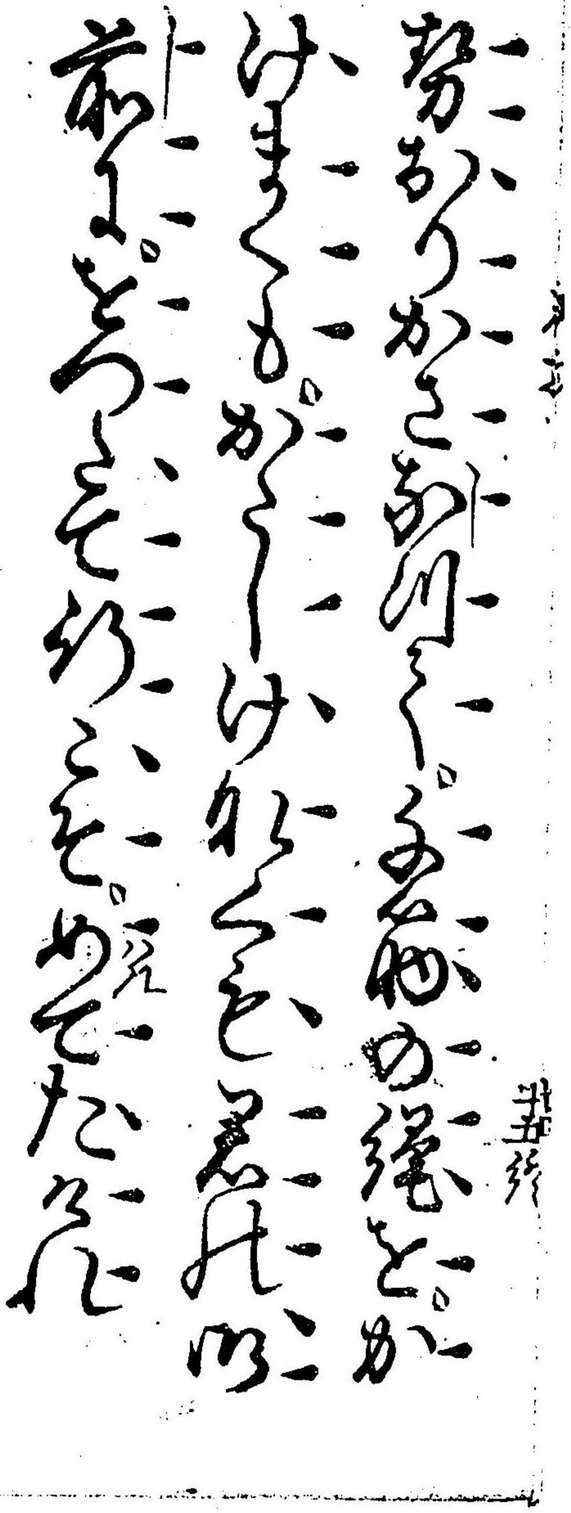
人はかを伝乃ぷ　おのひの後と中ほとも
ぷあて慰むあ　ひなきぷ　時家の母上
ふとひヤたると思ひ　今とれをぬ
と守り仏の御世を　世の縁なく
来世をいたまけ　法へや　上手即　ととふる
日も入れの涙も　やなく　法仏

無常とつけ渡ふ　ぱくよいをけく
つひ涙と　文ふ老こ　ぱまやぱ
ぷふれひ　まれふと　思ひ人の心
まで今文思ひ　ぱ雲れかやぱ家
古乃手を　ぷ　当秋ふ涙　ぱ
をとくと仏と　人送りでなれて

[illegible]
[illegible]
おぼ白波の吉たく[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぐ〜ぐらい物のぞきとりとりけり時
家と用うけてかくもうり　物の
やとのしらよぐ〜ぞふまれてそ
おら見りのをとおもしぞうる
けしほめぬ人をなかりうれ　かを
ゐるおぐ〜ぐらかるのふる屋敷
ぐ〜舎うりをかく強部り秘術と
面しつ。五郎うれりそふきつ〜かを
村宗をぐらやを郎のいるを力の
のをとうり赤くしうれたひしう
ぐとうきりうふるを郎三つかを
りをみくたりけり新かうるを

作　四方の鄙人中元ト
かたらひ物とりとる元ふれ盥のそそと
とる家物がつけふけつくふ投うけ
うくるに落きぬ引ト
きふを結けと新トシテ今の時宇ふを カケリ
運つさゆゝ月作ぷかもなら
城のちよををふて鄙ると鄙り
ヒ元ト上ヒんをふへシテとふ
元ヒ多九ヒ元ヒ元ヒ元



右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歳弥生

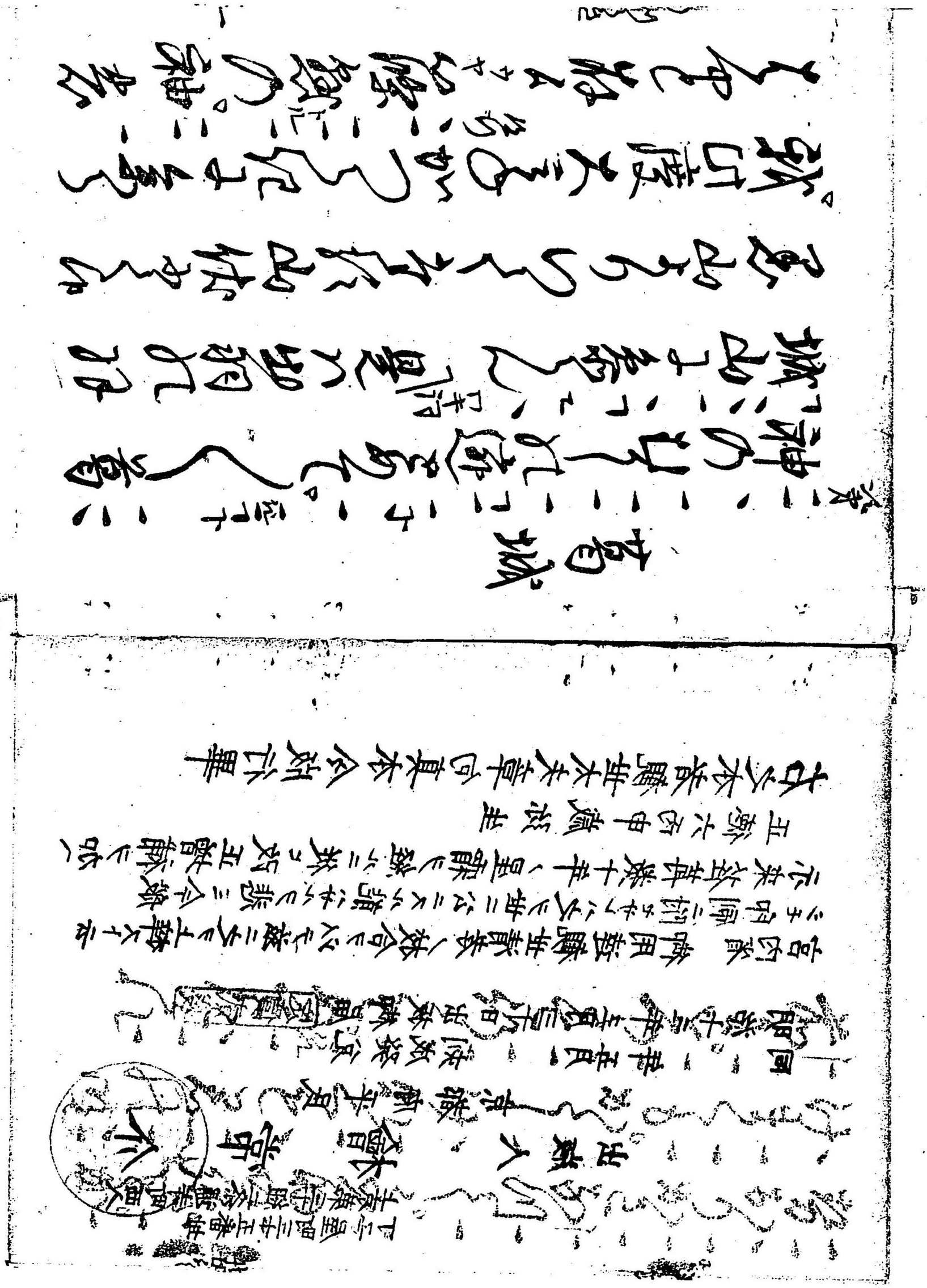
示来荃蓂数十年ノ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般宮内省　御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届

同　年五月　刻成発兌

定價貳錢

出版人　京都府平民　檜常介
上京第三十組二条通寺町西入丁子屋町三十五番地



一、二、二、二、三
あさ霜ゆきさ所ゆ、元、岩根
一一一一一二二元一一
ゆまつる松ゆ、元、の宿りを去
一一一一一

ゆうきの山より住みかへる巣をとる
道のゆるさにおそれたる面
目路をさへぎれ雪のみちをかさく
きて家路のさくうをわきまえ
ぬおもてやちまたの旅人の
まいりくより雪の山しの迷ひ

ーーー

をたうして作よ。汗出有勢よ
うう少し扱はい宿りいつくそや
汗をつたひ出れあれと成。若の
下唇見るうつくしく花なる雲
のたまを海辺。浦を結ぶよ
ろ〳〵ふはは佳やさんと

三、二、一、一、一

頭の塗りよい不き喜れ於仏手物
ハく歩帰り途やゝ山人農かまま薪
も埋まて雪こうくれ居の
道をたりく帰宅きくた日
ものいとりつきみきりく
芝くれやんやれ喜に前
ねど志してん扇よりひのち
宿をしくもう鶴よ社へ
あまりよ長さしよ泊に是仏
標をこ記彫くよ焼てあて
ゑらせ仏鶴 荒面白や
ものこと記ばれおくれ

う（ニテ）うしてやまがは高城山をゆき
の中をゆひ集めたる本くの
指をさすとこそ思うめされぬ
八洗心をさやうよ社うへ
（ヨキカル）ここ、ここ、ここ、ここ、
芸者すこうやゝ松い洗ふとと
ここ、ここ、ここ、ここ、
ゆ本い高城山よ。由然ある

ここ、ここ、ここ、ここ、（ニテ）申やあ古：
本くくよあゝ
さ言れ言葉をそ刀。標をゆひ
なる高あゝを。洗かつゝを山の
ゆうゝをせてゝも。是大和葬の
言とゝうゝ（ヨキカル）ゝゝ高ゝを大和
ここ、ここ、ここ、ここ、
葬れ。言のゆうゝを思ひ出の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

のまをと思へ紙ゲルの切れ
ぎれをとり副て思ふ事を
たゞ人の若れ衰の
色よく法よ心い墨染の油
白粉のゆさに
やうとそ見ぬ所くたのすら
を思ひ出て油さ
りあの果を紀寒門を書く
つゝさの山伏表名の事
ぶ〻油の形し紙体
あ絵や清水を体あ絵や
袋蛭や藤袋を持てる

そや。意は衣の勅とそ、め
りやと思ふ。「汗」勅ゐは右う
なや。弟子なやある心あり。汗
つとめれ作くよ物を持
して給ふ人「早」そも学よ
ありやしく面といひ何といひた

ぬ子中さん「テ」さけさたよ世ち
血障業罪ふさよ。法のとうあ
の呪詛ををひ。法山の名たし
ぬよつて菩ふくゆとい事
めくく。彼三熱ふれくそこと右
けゆとをひきくたひ法人

ワキセル

そも神ぞ三熟の苦しきを
とゝ云ふ事は紀ノ国なりし
なるゝ古れ法の岩けかを
はるゝ。其とゝろめとく明るの
さはをみて京はいまめく
ゆゝしくたゝぬ方なり

ワキセル

是いかゝさのはるゝ。概ち昔
れ葛城者。神の苦しをつ紀
ワキ紀石を動ものの非たを
して葛ゝ法のこの岩
ほ者ものとゝ法を葛の
ワキ不ひ苦く者よ

おうれ　霜よ責められ起伏の立
居も苔の紀盤戸のうちゆる
ひさうう　き表神よ血
すの音しをひの移ひ物
くたひ強へと出ひの
ま弘強て神うまれふそ成よ

きくく　岩橋の苔の衣
れ袖をへてく法のもりろ
ぞとことりよ法味を知て
ようしうう組菖城の神て
ろるれ行日吉巳御乳
神菖城の苔ひうれ光

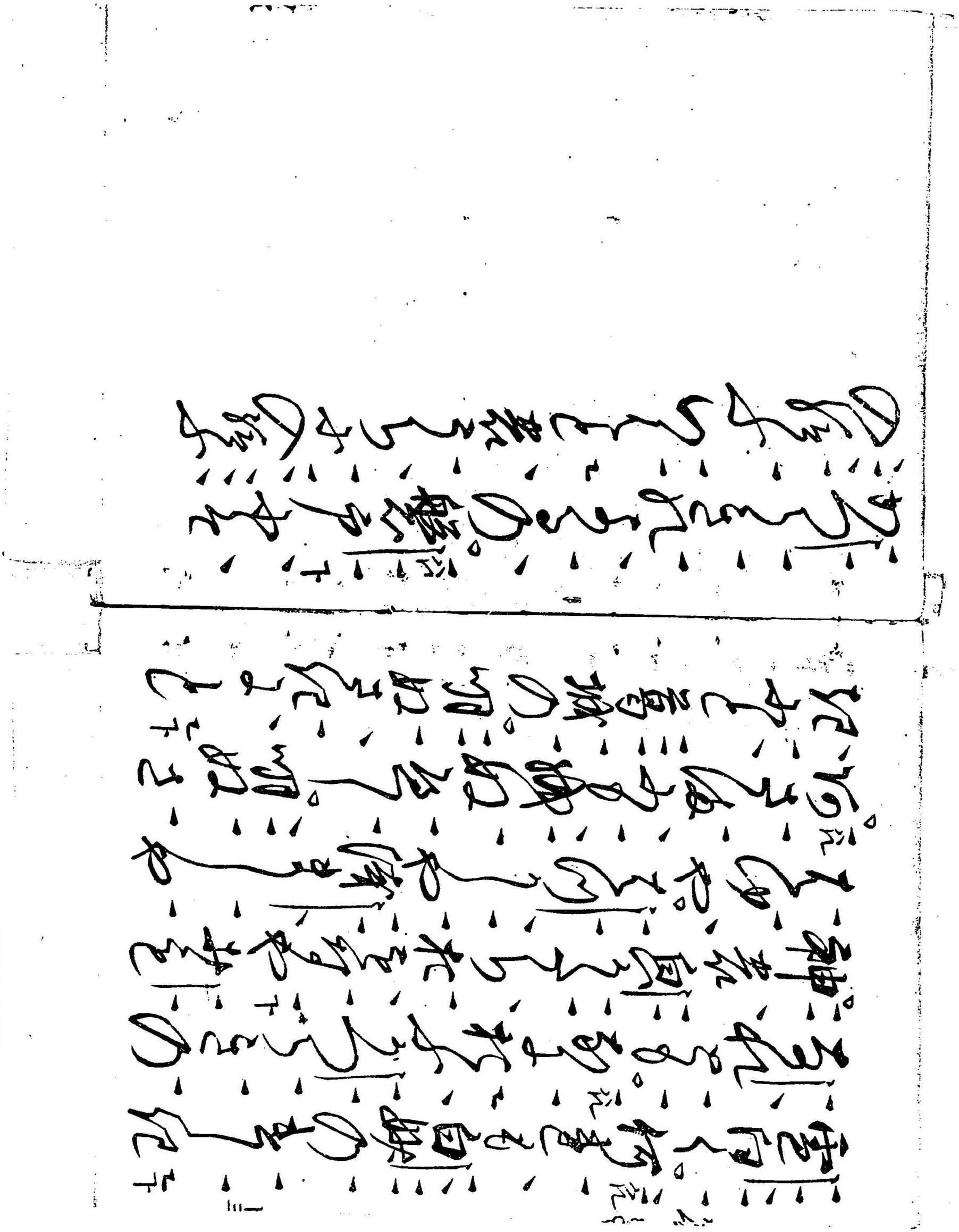
の歌よあらわく立蓋の
眼を無上正覚の月よ清
法性寺殿の宝の山よ法味よ
むうれて有り難し勧め
ずくませ（ワヲカルー）
たる山の帝釈の神

とれ河くてゐれ筆を海う
ゆく春ゆけくく暮う
陰のそびまとりれか長衣
是ぞ長へや明るれつくいう
かれをいまめく（ワヲ）三
熟れ神心年（シテ）春雲や

十三

櫻ゆ　葛城山岩ゆの
ばるるあまと月宮のさらら
紀神神の祭すたを
うかと色の神すこいたれ
原より野の山ゆ
かきて通へや岩橋の。こ月れ

原ハ是ありまとや。神樂ゆたを
めくく大和葉いたやうなてん
かる宮の。きりとゆ花の。ちら
おくく下たゆの原岩驚ア
れ葉ウ。あ海の音久山
ハ向ひよみ主月ちく



右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歳弥生

示来荏苒数十年ノ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般宮内省　御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同　年五月　刻成発兌

定價貳錢

出版人　京都府平民　檜常介
上京第三十組二条通寺町西入丁子屋町三十五番地

上山郡里山十四番地
北海道山十番地後藤半兵衛

[illegible]　太郎　殿

[illegible]

[illegible]

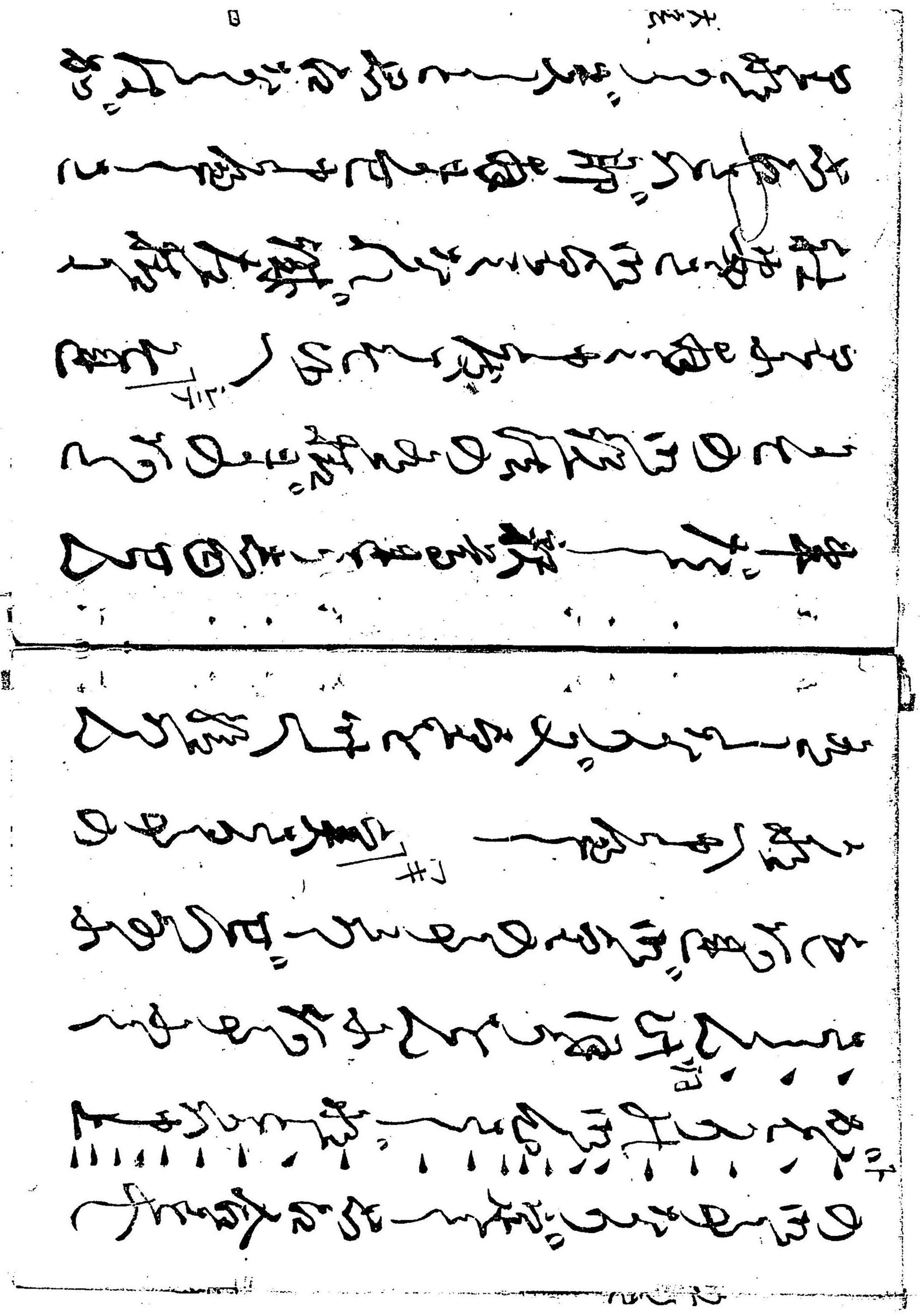
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]や[illegible]いふは[illegible]
の見へあんかいゆは　[illegible]
[illegible]とおもひ[illegible]とと[illegible]
[illegible]いう[illegible]
[illegible]あるふ[illegible]
[illegible]ば[illegible]

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ものを[illegible]
[illegible]あふ[illegible]
[illegible]ものと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]院の[illegible]



なりて秋の月の
ひかり霧にかくれ
もやくくとして
まふみにくる松に
とふさき分のる
とあり秋の時の
雲霧ふりくくの
分かとあるを
くくと吹あけ
くくりかくれ
くい

（後二字上）

月出山に
くくと
雲霧ふりくくの
分かとあるを
くくと吹あけ
くくりかくれ
くい

（後二字上）

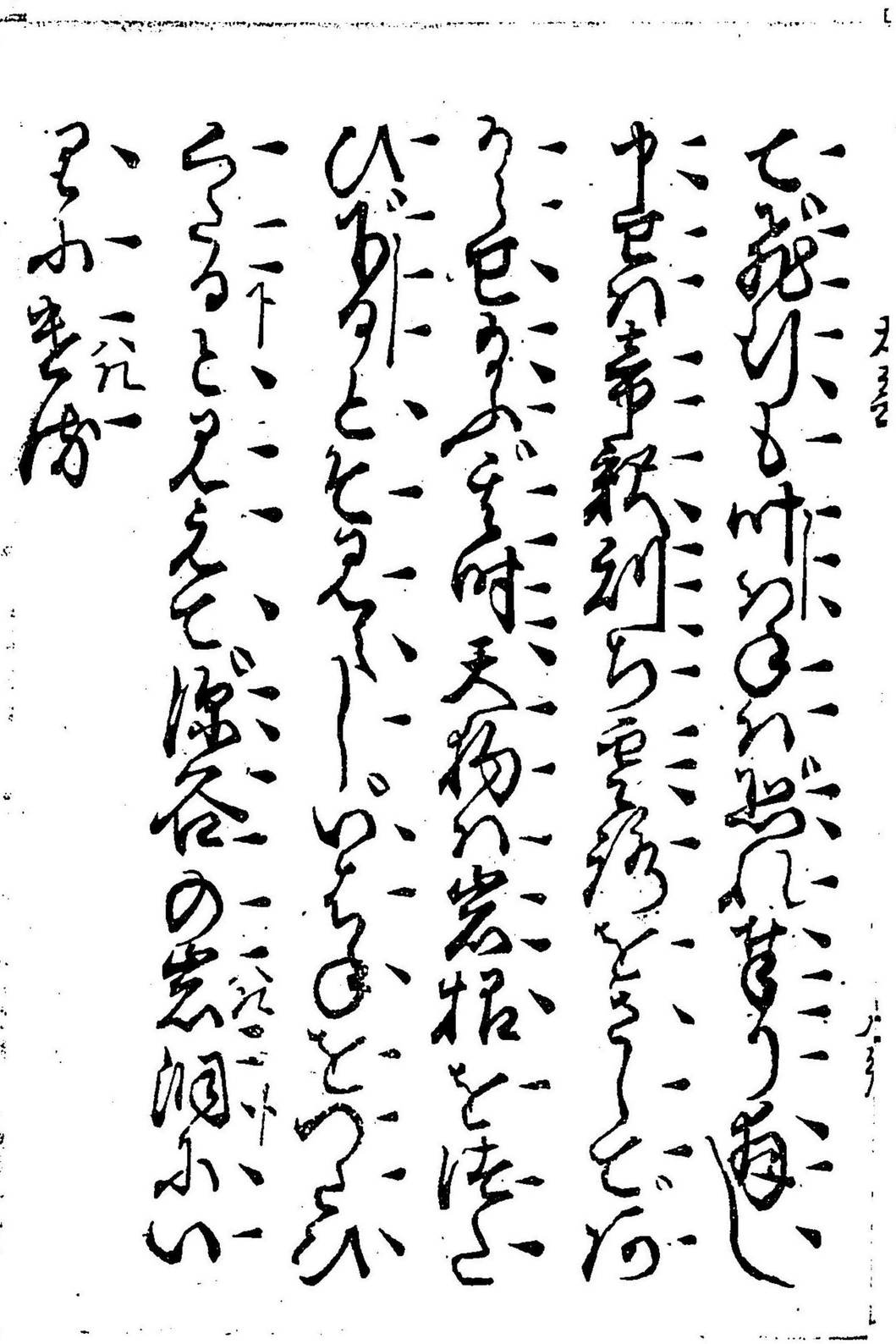
月出山に

きを生じがたく思ふ事なれ共、
をはば海の深さを尋ぬる
ごとく思ふ事なれ共、
しをや庭訓なきゆゑ
御乃ぶ事なく思ひ
まぎらはしをとこ

おもひまぎらはしをとこ
こむすめ　木の又七重の桐樹
となり　月　春や如何なる事の
ふあるかを後へ
なよ屋後へ
思ひ

神八郎とのゝ御ゆい状
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白雲ひき靡て雨降
天くりくるくるかとみえくるる天
物とのくさまたとかたく
ふるふるさよ上新好の蓋ふ
蓋人城のうくに帝釈殿に数
ふれ魔物とたのもふ好豆盛
つる大会らりくいかなりとたえ
こと下下下



右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歳弥生

示来荏苒数十年ノ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般宮内省　御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

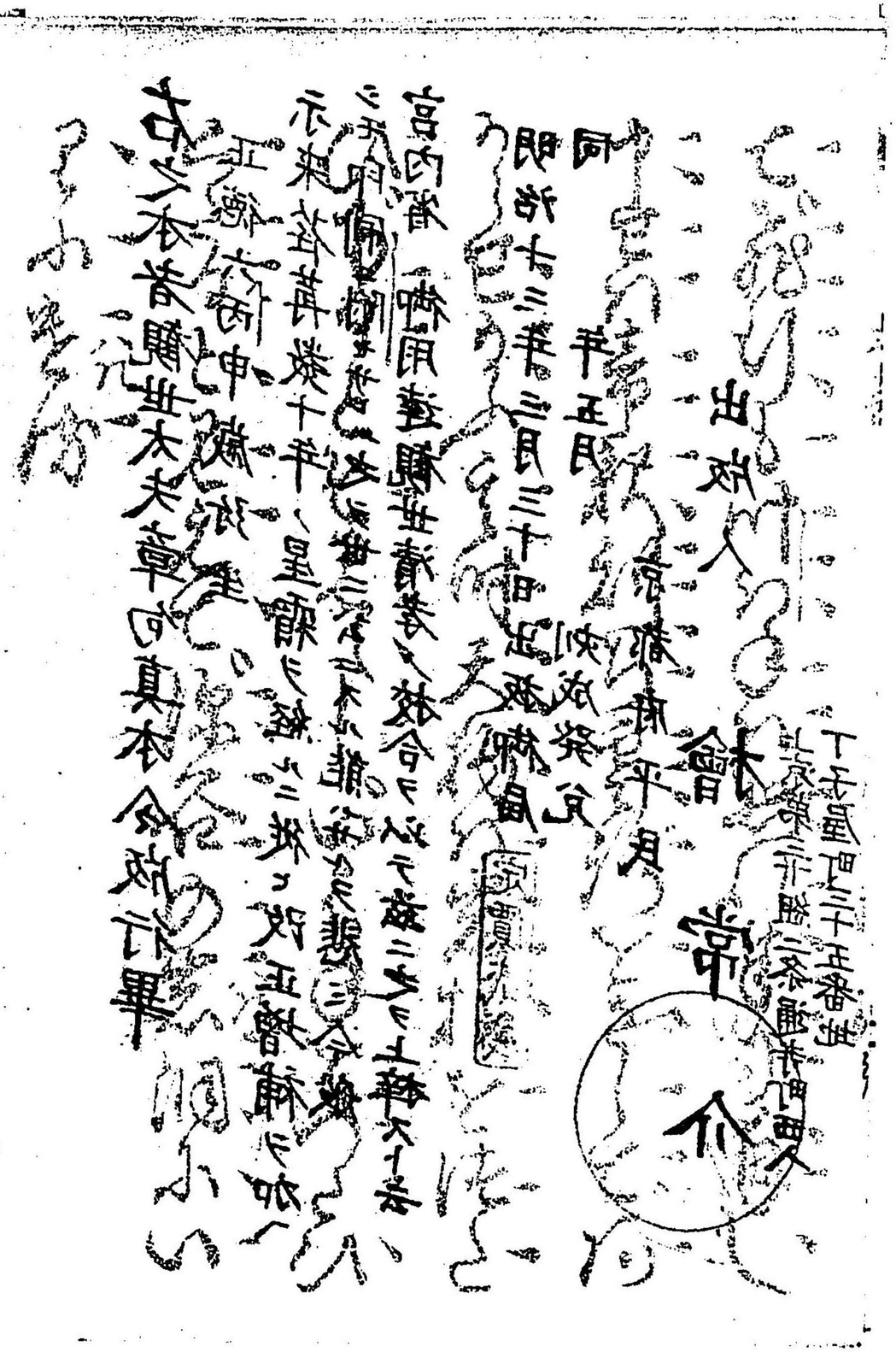
明治十三年三月三十日出板御届

同　年五月　刻成発兌

定價弐錢

出版人　京都府平民　檜常介

上京第三十組二条通并町西入丁子屋町三十五番地



竜虎

法の道かと思ひ立ぬ。なを
ちはるかに船路の邪魔へ
法は一見出家僧かとて。我若年
の時よりも。法國修行の志有
ようぷ日外とい別めく

竜作

又そこに弟子達は寺を仏法流布の
所を尋ぬ入唐渡天れ仏生を尋て
洲岡に九州博多の津より船
に。能便船に乗。洲去思ひたち
渡唐仕ふ天の原八十潮うきて
曹洞宗。船治れ出ものも
船ひの筑紫と海より新しく
沙門よつくく雲れ波うしを
分る海原をゆ山尽て行なお
くぞやりろうよ行ろう
くれ嬉しやん遠くと思
ひに仏祥れ仏加護やまえ

竜所

ぞうさん安隆よりかんさいまで
ゆく後唐住りてゆく四海より可く
と一見せんとやとなん。ゆくやはか
浦と隔てて人煙遠し。湖水
天よりうつくしくんて冬遠
山々の村々
なる。緑めずらしき面白さよ。又
見成てはつゝしひと山人れ寄り
ゆく先を待る前をも書ねと
やとなん。「モイニ入」「ここ」「ここ」「ここ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一一一、下一、元、
おもてれたる。佛
こゝ、こゝ、こゝ、
ゑて。ゆる。山路の。くもゝ。さくく

半行
ゆゆよ是ゝ山人よたつゝ
ゆれん　シテ行　石思ゝ
ゆ清すゝ。ゆ。扶是ゝ入
ゝゝのゆつゝて。ゝ。ゝ

半
ゝゝくゝ仏ゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝ仏法流布の
古跡ゝゝゝ。是ゝゝ天の
ゝゝゝゝ。ゝ思ゝゝく作

シテ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。昔ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つくたりの中高くそびえ
海の方なる山河はけしく行きも
妙なる海の中おあれよりなる
る遠山なれ向ひよみくたる竹
林よ樹くさとの打掩ふ冷
しく吹来るなり　三月

蹴をの中紀是いらなる事
なりん　シテ行　天満宮不審い出紀の
竹林れ岩洞い虎の栖かくれを
向ひよみえ来る山よる幸く
をの掩ひつ竜虎の戯ひ有
ものと　ワキセル　思ふ

[illegible]まのあたり。龍虎
の[illegible]猴をのみる事
のみきはめよ（シテ打）畜類をれた
かくのごとく。[illegible]殊ひとあり
たりて（ワキ）何[illegible]とりはのを（シテ）あり
[illegible]れ（上言の月）蝎牛の角れ上り

元。墓をや何[illegible]（ヤア）[illegible]ひとを
人の[illegible]。[illegible]物を無甲れ
元。[illegible]ひとれたり畜類の[illegible]
元。[illegible]
（ワキ打）[illegible]龍虎
[illegible]猴[illegible]
元。[illegible]（クリ）[illegible]生[illegible]者

[illegible]を[illegible]人同
[illegible]は同じ。必竜虎[illegible]
[illegible]色[illegible]
[illegible]とうち。猛虎[illegible]山[illegible]
おこし。何[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]ちく

[illegible]
類[illegible]とも[illegible]住ちく。[illegible]井よす
めい[illegible]虎の[illegible]級　帝れ[illegible]長[illegible]
を是[illegible]
[illegible]
[illegible]を申[illegible]を竜
[illegible]
[illegible]付[illegible]
[illegible]
虎[illegible]

道を開く。但奉とうむとうぶ
よりて作いたよりて四表落き
を秋なと。光のむしよりられ陰
清く。異なる法の道とる。君
かんよ仕奉り。三ヶ月すれひ
とつよ。那きくらと学ぶを

竜序を起りぬ。晴を
成生ぬ。同しまれなり
みる社ありきれ是を
和国の初りぬ。ぬを野も
見給ひ。山陰に沮つひ。竹
れを中のこと学ぶを

の陰より立ちまよひ乳房を隠して
袖とぞ。夕日もかすかきぬいとま
なけれとりの染れたるを肩
やけんとりの染れたるを肩
ようち動く。谷の下道をる
くと。家路をとさして。くるう
きをくく

楓も色はやや

山人の。朝の。まよ山路を行
林を過ぎ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
もろもとして。枝の多く
たうたう。せうさうとして
秋の色より。
まもるくもとれたる。

雷鳴する雨の音。鳴神稲妻
天地をゆるがす。きらめく電光。
たれ出る金竜。雲の間を
縫ひ。雲の間を
行き。雲の間を
行き。雲の間を
行き

に
く金銀雲ぐもりおりてつて
惡虎をとらんとおもくうるを花龍
の雲くうひ陸をあ（ハ）（ミキトシテ）ゆきを
虎乱雲いきほひたをく
ぶをとんも劔のもくよ行校を
ゆく金竜よ和れば惡虎と

まんとをぶんをうをとをいをて
追つあくうんとをれば金銀雲を
井よ遍ふのりまは惡虎ハ勢
ひ叢よあるを形よんをく
りを金のいきほひあをりを
つひよ竹林よきをを

182
22
157

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正德六丙申歲 弥生

示來拾萬數十年ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ改正增補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般

宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同 年五月 刻成発兌

定價貳錢

出版人 京都府平民 檜常
上京第三十組二条通寺町西入丁子屋町三十五番地

今井

182
22
157

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歳弥生

示来荏苒数十年ノ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般宮内省御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同　年五月　刈成発兌

定價貳錢

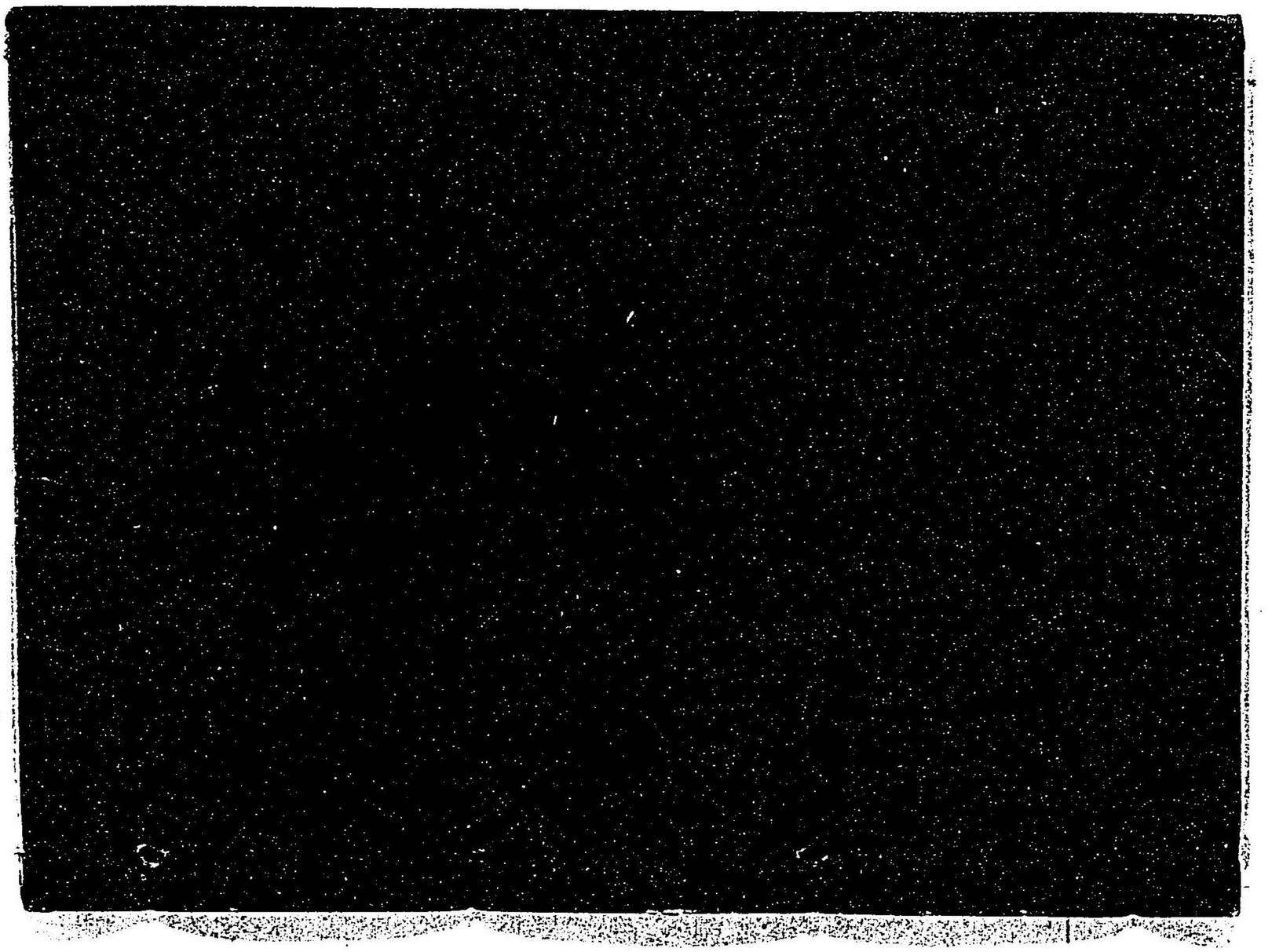
出版人　京都府平民　檜常介
上京第三十組二条通寺町西入丁子屋町三十五番地

合

ここにこそ
年毎よ老の
ここにこそ
よろぶきり

ここにこそ
ふれ
ここにこそ
ふれ
ここにこそ
ふれ

182
22
157

東京圖書館

書門	音遊藝類	函	架	號	冊
			四	二	二